

「緑蔭に書を縫ひもときつゝ、盛夏を過ぐす。」  
暑さのしのぎかたにも、古人のそれは、  
そこはかとなしきが漂ひらっている。  
私どもの周囲から樹木が消え、都会の八月は、  
緑蔭とはほど遠いけれど、夏休み  
のひとつときは、古人にならって、やはり、  
ゆつくりと書物の頁を繰くりたいものだ。

保育とは、文字や言葉で表現される硬質な論理にもまして、肉体と感受性の論理を基盤とする営みである。文字との戯れを、ロゴスの世界のことからと見るなら、保育とは、その対極に位置するとも言ひ得よう。保育者とは、子どもらとの出合いの中に己れを開き、肉体と感受性のすべてを働かせて、一瞬々々を生きたる存在なのだ。

保育者たちが、自身を縦糸とし、子どもらを横糸として、日々、紡紡ぎ出す保育現象は、それだけで、一枚の巨大なテキ

ストなのだが、縦糸でもあり、織り手でもある保育者たちは、自身の織り成すテキストを読み解はくいとまもなく、慌しく、翌日の機はたに、また、新しい糸をかけねばならない。

そんな日常性から解放される夏休みは、保育者にとって、周期的に訪れる「ハレの日」である。そのゆえにこそ、保育現象を遠く離れて、思いきり、異質の世界に遊ぶもよしと、日頃、保育界とは余りご縁のない方々に、図書の紹介をお願いした。結果として、様々な分野から指名された「書物たち」が、ご紹介くださった方々の個性と、それぞれの学問の位相を体現しつつ、ずらりと顔を揃えて、楽しい特集が出来上った。

「ひもとく」とは、花が開く意であると言いう。訪れる夏休み、これら書物の世界は、私どもの前に、どんな花を開いて見せてくれるだろうか。（本田和子）

## 幼児の教育 第七十九巻 第八号

八月号 © 定価二五〇円

昭和五十五年七月二十五日 印刷  
昭和五十五年八月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行人 津 守 真  
編集兼

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所フレイベル館にお願いいたします